



FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

イベント開催概要・レースレポート

16 Mar.
Sat.

■開催概要

- 大会名称 : 2024 FUN & RUN! 2-Wheels IN SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 東コース (2.243km)
- 開催日・天候(コース): 3月16日(土)・快晴(ドライ)
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町7992 <https://www.suzukacircuit.jp>
- 開催クラス : ★総参加台数/144台
ROAD STAR I...9台
ROAD STAR EXPERT I...8台
ROAD STAR II...14台
ROAD STAR EXPERT II...4台
FUN & RUN Mix Small/EXPERT...13台
FUN & RUN Mix Big/EXPERT...18台
ROAD STAR WARS I...21台
ROAD STAR WARS II...12台
NEO STANDARD<CBR250R>...9台
NEO STANDARD<G310R>...14台
NEO STANDARD<Ninja250>...14台
NEO STANDARD<YZF-R25>...8台



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/race/top.htm>

■次回開催予定

- 大会名称 : 2024 FUN & RUN! 2-Wheels IN SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 開催日 : 2024年8月3日(土)
- 開催クラス : NEO STANDARD<CBR250R/ G310R/ Ninja250/ YZF-R25>、FUN & RUN Mix Big/EXPERT、
FUN & RUN Mix Small/EXPERT、ROAD STAR WARS II、ROAD STAR II、ROAD STAR EXPERT II





FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

開催クラス紹介

16 Mar.
Sat.

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダCBR250R、YZF-R25、BMW G310Rの4車種にクラス分けされています。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのにも人気の理由。ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

<参加車両例>カワサキNinja250R ホンダVTR250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

【ROAD STAR WARS I/II】

一般公道走行が認められている、いわゆる「ナンバー付」車両による、レース形式競技がこのROAD STAR WARSです。「I」と「II」は車両の大きさの違いであり、2ストローク251cc/4ストローク401cc以上の車両がROAD STAR WARS I、2ストローク86cc~250cc/4ストローク100cc~750ccまでの車両がROAD STAR WARS IIとなります。

<参加車両例>ホンダCBR1000RR ヤマハYZF-R6 ヤマハFZR400 スズキRGV250γ カワサキZZR1100 等

【ROAD STAR I/II】

ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

<参加車両例>ホンダCBR1000RR ヤマハYZF-R1 トリアンフデイトナ675 ビューエルXB9S スズキTL1000S

【FUN&RUN Mix Small】

いわゆるシングルや小排気量車、すなわち排気量が2st250cc/4st 400cc以下で、ホイールサイズが16インチ以上の一般生産型市販車、単気筒および2気筒エンジンを搭載するバイク、そして400cc以下と 2ストローク250ccの公道用一般車両が対象。一世を風靡したレーサーレプリカなど個性的なバイクが参加します。排気量と気筒数により、Small I、Small IIと参加車両のカテゴリーが分かれています。

<参加車両例>ホンダNSR250SE ヤマハTZR250RS ヤマハSRX60 スズキSV400S ホンダCBR400RR カワサキZXR400R

【FUN&RUN Mix Big】

国内外のV型2気筒エンジン搭載車と一般生産型の車両で4ストローク401cc以上のマシンなら何でも参加可能なクラス。

国内外メーカーのツインバイク、そしてビッグネイキッドが一堂に会するレースは迫力が違います。特に「C-OPEN」クラスは、排気量が2ストローク251cc/4ストローク401cc以上でホイールサイズが16インチ以上であればどんな車両でも参加可能なクラスです。

<参加車両例>ホンダCBR1000RR ホンダCB1300SF ホンダVTR1000SP1 ヤマハYZF-R6 ヤマハXJR1300 スズキGSX-R600
スズキGSF1200 カワサキGPZ900 ドゥカティ999S ドゥカティ1098S アプリリアRSV1000R





FUN & RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

イベント全体概要報告

16 Mar.
Sat.

春らしいポカポカ陽気の下、“ファンラン”が開幕! 初戦らしく、各カテゴリーで激しい戦いが展開された!!

2024モータースポーツシーズンが「NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース」で開幕したのが3月10日(日)。例年と比べ一ヶ月以上早い幕開けとなったその翌週、3月16日(土)に「FUN & RUN! 2-Wheels“ファンラン”」も2024年シーズン初戦を迎えた。

“ファンラン”は「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトに1999年から開催されている参加型のレースイベント。様々なバイクと幅広い年齢層のライダーが一堂に会し、たくさんの競技が開催されることで人気を集めている。

開幕戦の今回は“ファンラン”の原点とも言えるナンバー付き車両で気軽に参戦できるタイムアタック競技の「ROAD STAR」、それらのバイクによるレース競技の「ROAD STAR WARS」をはじめ、小排気量マシンによる「FUN & RUN Mix Small/EXPERT」や大排気量マシンによる「FUN & RUN Mix Big/EXPERT」、さらにはスプリントレースでありながらセミ耐久のような楽しみ方ができる「NEO STANDARD」といったレースが開催された。

「ROAD STAR WARS」には国内外のリッタースーパースポーツを中心に直列3気筒エンジンを搭載したネイキッドスポーツのヤマハMT-09や大人気のカワサキZ900RSも参戦。「ROAD STAR II/ROAD STAR EXPERT II」と「ROAD STAR WARS II」ではヤマハMT-07をベースにしたフルカウルスポーツのYZF-R7の参戦が増えてきたのが印象的だった。

「FUN & RUN Mix Small/EXPERT」には往年の2サイクル250cc/4ストローク400ccレーサーレプリカの他、市販レーサーのHonda RS125Rや同NSF250Rも参戦。「FUN & RUN Mix Big/EXPERT」にはいつも通り600ccスーパースポーツやリッタースーパースポーツの参戦が多かった。

昨今の“ファンラン”で特に注目を集めている「NEO STANDARD」では、この数年で一気に参加台数を増やしたG310クラスが、昨シーズンの第2戦から単独クラスとして開催されてきた。VTR250クラスが非開催となったため、今シーズンは再びCBR250Rクラスとの併催となったそのG310クラスには今回14台が参戦。VTR250からG310Rにマシンを変更して参戦するチームもあり、今後の盛り上がりを予感させた。

初開催以降、参加者の意見も取り入れながら様々に変化してきた“ファンラン”では、昨シーズンまで「Full Course Special」として年に一度フルコースを使った大会が行われてきたが、今シーズンは次回8月3日(土)の第2戦、11月23日(土/祝)の第3戦がともにフルコースを舞台に開催される。フルコースを舞台とすることにより、一層魅力が高まる“ファンラン”第2戦も楽しみにしていただきたい。



ROAD STAR I/ROAD STAR EXPERT I コースイン直前



FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

レースレポート-1【タイムアタック】

16 Mar.
Sat.

ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT I

この日最初に行われたこのタイムアタック競技には最新の600ccスーパースポーツやリッタースーパースポーツの他、ホモロゲーションモデルのHonda VFR750R (RC30)、カワサキGPZ750R、同Z900RSも参戦した。フリー走行では津村一博が56秒380のトップタイムをマーク。その津村がアタック1周目に55秒848をマークしてフリー走行中の自己ベストを上回る。それに56秒494の内田洋一、57秒672の呉島伸光と続く。内田は55秒723をマークしてタイミングボードの頂点に。津村も55秒782をマークする。その後、内田と津村がピットイン。結局、内田の55秒723がトップタイムとなった。津村は再びコースに復帰するが、タイムアップは叶わず、55秒782で続いた。



ROAD STAR I 総合表彰式 (優勝:道中辰彦、2位:呉島伸光、3位:飯田幸紀) ROAD STAR I カテゴリー別表彰式 (C1優勝:道中辰彦、C2優勝:飯田幸紀、C3優勝:松原耕司)



ROAD STAR EXPERT I 総合表彰式 (優勝:内田洋一、2位:津村一博、3位:須藤清昌) ROAD STAR EXPERT I カテゴリー別表彰式 (C1優勝:内田洋一、C2優勝:橋本尚樹)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に参加しない選手、あるいは代理の場合もあります。
※順位は暫定です。正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

レースレポート-2【タイムアタック】

16 Mar.
Sat.

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II

続いて行われたこのタイムアタック競技には往年のレーサーレプリカを中心に参戦。2気筒エンジンを搭載したミドルクラススポーツモデルのヤマハYZF-R7やアプリリアRS660の参戦も目立った。フリー走行では水本茂樹が1分00秒781のトップタイムをマーク。アタック開始早々に藪谷文彦が1分01秒024を記録する。大竹洋司が1分00秒072をマークしてそのタイムを逆転。しかし、次の周では藪谷が59秒450を記録。水本も59秒744をマークし、その時点では藪谷と水本の2人だけが1分を切るが、大竹が一気にタイムアップして58秒845をマーク。唯一の58秒台となる。その後、大竹はピットにマシンを入れる。結局、大竹の58秒845がトップタイムとなった。



ROAD STAR II 総合表彰式 (優勝:水本茂樹、2位:藪谷文彦、3位:鈴木賢斗) ROAD STAR IIカテゴリー別表彰式 (C4優勝:水本茂樹、C5優勝:東野晃也、C6優勝:萩野興次、C7優勝:澤井辰彦)



ROAD STAR EXPERT II 総合表彰式 (優勝:大竹洋司、2位:森田功、3位:宇都宮武明) ROAD STAR EXPERT II カテゴリー別表彰式 (C4優勝:森田功、C5優勝:大竹洋司)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に参加しない選手、あるいは代理の場合もあります。
※順位は暫定です。正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

レースレポート-3【レース形式競技】

16 Mar.
Sat.

ROAD STAR WARS I

ヤマハMT-09やカワサキZ900RSも参戦したこのカテゴリー。ポールポジションスタートの津村一博と2番グリッドスタートの秀崎隆が横並び状態で1コーナーへ。最後に伸びを見せた秀崎がホールショットを奪う。秀崎と津村はオープングラップから3番手以降を引き離すことに成功。秀崎、津村、4番グリッドスタートの早川泰治のオーダーでオープングラップを帰ってくる。3周目の5字コーナーで津村が秀崎に並び、これをパス。津村と交錯しそうになり、出遅れた秀崎の後方では早川、呉島伸光、須藤清昌、内田洋一の4台がバトルを披露する。津村はその後も危なげない走りを披露し、津村、秀崎のオーダーのままチェッカー。内田が3位入賞を果たした。



ROAD STAR WARS I 総合表彰式 (優勝:津村一博、2位:秀崎隆、3位:内田洋一) ROAD STAR WARS I カテゴリー別表彰式 (C1優勝:津村一博、C2優勝:岡村一秀、C3優勝:西尾克己)

ROAD STAR WARS II

大竹洋司が2番手タイムの田頭讓二とコンマ049差でポールポジションを獲得。2列目4番グリッドスタートの水本茂樹がその大竹の横から伸びていく。水本がホールショットを奪うと、トップのままオープングラップを終了。3番グリッドスタートの藪谷文彦が2周目のメインストレートで速さを見せ、続く1コーナーでトップに。3周目の1コーナーから2コーナーにかけては大竹が水本をアウトからパスする。勢いの止まらない大竹は藪谷の背後にも接近。しかし、大竹は田頭讓二の先行を許す。一時的に独走状態となった藪谷、田頭、大竹が等間隔に。その3台に水本を加えた4台がファイナルラップまでバトルを続けたが、田頭が逃げ切る展開となった。



ROAD STAR WARS II 総合表彰式 (優勝:田頭讓二、2位:藪谷文彦、3位:大竹洋) ROAD STAR WARS II カテゴリー別表彰式 (C4優勝:藪谷文彦、C5優勝:田頭讓二、C6優勝:萩野興次、C7優勝:高木淳)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に参加しない選手、あるいは代理の場合もあります。
※順位は暫定です。正式結果はウェブサイトでご確認ください。

■FUN & RUN Mix Small / EXPERT

ポールポジションスタートの宮島伸也が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。それに続くのは6番グリッドスタートの前田晃治。2番グリッドスタートの清井敏明が出遅れる。愛甲正吾が宮島、前田(晃)に続く3番手でオープニングラップを終える。宮島はオープニングラップ終了時点で後続に3秒以上のタイムギャップを築くことに成功。宮島はその後も後続を引き離し続ける。その後方では清井が愛甲、前田(晃)をパスして2番手に。前田(晃)も愛甲をパスする。4番手を走行するのは芝井賢一。前田(晃)、前田義生、丹後明義が5番手グループを形成する。結局、宮島は清井に27秒541ものアドバンテージを築いて独走優勝を飾った。



FUN & RUN Mix Small総合表彰式 (優勝:清井敏明, 2位:芝井賢一, 3位:丹後明義) FUN & RUN Mix Smallカテゴリー別表彰式 (Small I優勝:清井敏明, Small II優勝:宇佐美有年)



FUN & RUN Mix Small EXPERT総合表彰式 (優勝:宮島伸也, 2位:愛甲正吾) FUN & RUN Mix Small EXPERTカテゴリー別表彰式 (Small I EXPERT優勝:宮島伸也)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に参加しない選手、あるいは代理の場合もあります。
 ※順位は暫定です。正式結果はウェブサイトでご確認ください。



FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

レースレポート-5【レース形式競技】

16 Mar.
Sat.

■FUN & RUN Mix Big / EXPERT

4月20日(土)、21日(日)に開催される鈴鹿サンデーロードレース開幕戦の練習やテストも兼ねたライダーも参戦したこのカテゴリー。ポールポジションスタートの久積基宏が絶妙なクラッチミートを披露。そのままホールショットを奪う。それに続いたのは2番グリッドスタートの井沼真樹。久積、井沼、9番グリッドスタートの浅埜昇三のオーダーでオープニングラップを終了する。久積の背後に井沼が接近。その2台が後続を引き離してトップ集団を形成する。久積は次第に井沼をも引き離し始め、独走状態に。井沼の後方では内藤雅人、浅埜、永井一幸らが激しく3番手の座を争う。中盤以降、トップ独走の座を築いた久積がポールtoウィンを決めた。



FUN & RUN Mix Big総合表彰式 (優勝: 下垣内浩樹、2位: 井上誠二、3位: 池田一仁) FUN & RUN Mix Bigカテゴリー別表彰式 (Big II優勝: 下垣内浩樹)



FUN & RUN Mix Big EXPERT総合表彰式 (優勝: 久積基宏、2位: 井沼真樹、3位: 内藤雅人) FUN & RUN Mix Big EXPERTカテゴリー別表彰式 (Big II EXPERT優勝: 内藤雅人、Open EXPERT優勝: 久積基宏)

※表彰式は総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。
※順位は暫定です。正式結果はウェブサイトでご確認ください。

■NEO STANDARD<CBR250R／G310R>

ポールポジションを獲得した奥田勇人／竹田透組がスタートで出遅れる。2番グリッドスタートの佐々木龍人がホールショットをゲット。その背後に3番グリッドスタートの小牧寛由が続くが、2列目4番グリッドスタートの伊藤翼が一気にトップに浮上する。その伊藤、佐々木、小牧がトップグループを形成。そこから若干離れ、稗田裕充／寺田愛基組が単独4番手を走行し、谷島友和も単独5番手を走る。佐々木と小牧が一時的に伊藤を引き離し、テールtoノーズのバトルを展開するが、再び3台が団子状態に。しかし、小牧が9周目の最終コーナーで転倒する。

佐々木が12周目終了時点でピットイン。18周目終了時点でピットに入った伊藤は佐々木の先行を許す。奥田／竹田組の竹田が伊藤に続く3番手に。佐々木が総合トップチェッカーを受けると同時にG310Rクラスのウィナーに。CBR250Rクラスを制したのは総合3位の奥田／竹田組だった。



NEO STANDARD<CBR250R> (優勝:奥田勇人／竹田透、2位:稗田裕充／寺田愛基、3位:高木真／鈴木克正)



NEO STANDARD<G310R> (優勝:佐々木龍人、2位:伊藤翼、3位:谷島友和)

■NEO STANDARD<Ninja250／YZF-R25>

昨シーズンのYZF-R25クラスチャンピオン鳥居典生がポールポジションを獲得。Ninja250クラスのディフェンディングチャンピオン山本晃久が2番グリッドからスタートする。鳥居がホールショットをゲット。それに4番グリッドスタートの松浦光利、山本、3番グリッドスタートの中村和悦と続く。その4台がトップグループを形成。山本が松浦をパスして2番手に。そのバトルの間に細川和彦／本田知英組が接近してトップグループは一時的に5台での争いとなるが、次第に鳥居、山本、中村がトップ3となり、さらに中村が遅れ始める。

トップ3は17周目終了時点でピットイン。続く18周目終了時点では松浦がピットに入る。ピットイン後の上位陣は鳥居、山本、松浦、中村のオーダー。終盤に中村が松浦をパスする。鳥居が総合トップチェッカーを受けると同時にYZF-R25クラスを制する結果に。Ninja250クラスのウィナーは総合2位の山本だった。



NEO STANDARD<Ninja250> (優勝:山本晃久、2位:細川和彦／本田知英、3位:西良英之)



NEO STANDARD<YZF-R25> (優勝:鳥居典生、2位:中村和悦、3位:松浦光利)